

心の輪12R



『ある日のバッテリーボックス』という資料を通して、『公平』とは何か?』について考えました!



違いを認め合い、理解し合うことが大切だ。人を「できない」と諦めるのではなく、できないところには、みんなで全力を尽くして支え合うことで、みんなが笑顔でいられることもできると思う。

『公平』とは、互いの得意・不得意を支えたり、違いがあっても全体が納得したりするということが大切なんだと分かった。一人の人間として認めたり、短所・長所を理解し、違いを認めたりできる人になりたいです。『助長補短』を大切にしたいです。

『公平』とは、互いの長所・短所を認め合い、それらを支えてあげることだと私は思います。今日の話では、先生と少年たちの接し方でO君の表情が変わっていた。少年たちはO君も楽しめるようにしていたけれど、先生は障害者扱いしていた。私も、こういうことがもしもあったら、少年たちのように接してあげたいです。

人によって公平の考え方が違うことが分かった。また、人のためを考えるなら、相手の気持ちを考え、長所や短所を理解し合うといいと思う。そして、相手と自分の違いを認め、全員が楽しめるように配慮することが大切だと思った。

『公平』とは、人のことを思いやり、大切にすることで、どんな障害などがあっても、普通の一人の人間として見てもらい、支えたり支えられたりしながら、同じように手を組んで進んでいくことだと思う。また、認め合うことだと思う。だから、相手のことを思って、理解することで、支えていくことが大切で良い社会づくりにつながると思う。

みんなが公平であるためには、生まれつきのハンデもみんなでカバーすれば、みんな対等な立場に立てると思いました。



いっせーの、せーっ

「〇～〇世の中」の〇～〇に、言葉を入れなさいといわれれば、「冷たい」とか「住みにくい」というよくない言葉が浮かんでしまうかもしれない。でも、世の中のいろいろな断面の中には、見知らぬ人たちがおりなす、けっこう温かい光景があるものだ。

いっせーの、せーっ
菅 美恵

三年前、仕事で地下鉄を利用したときのことで。初めての駅で、出口の階段を探しているとき「お願いします」と男性の声。

見ると、車イスの男性、その「連れ」らしき男性、駅員さんの三人がいました。

「私も……」と思って、ふと階段を見上げると、「エーッ!」。出口が見えないくらい長くて急な階段、吹き込む雨、おまけに通勤ラッシュ後で人通りも少なく「どうしよう」と思っているとき、どこからか男性五、六人が集まってきました。

皆、余計なことでも言わず「さあ、行きましょう」と車イスを持ち上げ、役に立たない私は、皆のかばんと傘を持ってついて行くだけ。皆、雨でスーツがびしょ濡れになりながらも、顔色一つ変えず一気の上って行きました。

車イスの男性の「ありがとうございました」の声で皆散り散りに。そして「連れ」だと思っていた男性も……。そう、彼も一通行人だったので。

たとえ一人でも、力を借りる勇気と、黙って力を貸せる親切心に、私の心は明るく晴れていました。

(河出書房新社刊「小さな親切」運動本部編「涙が出るほどいい話 第四集」による)

『中学生の道徳1 自分を見つめる』
(出版：あかつき) より引用